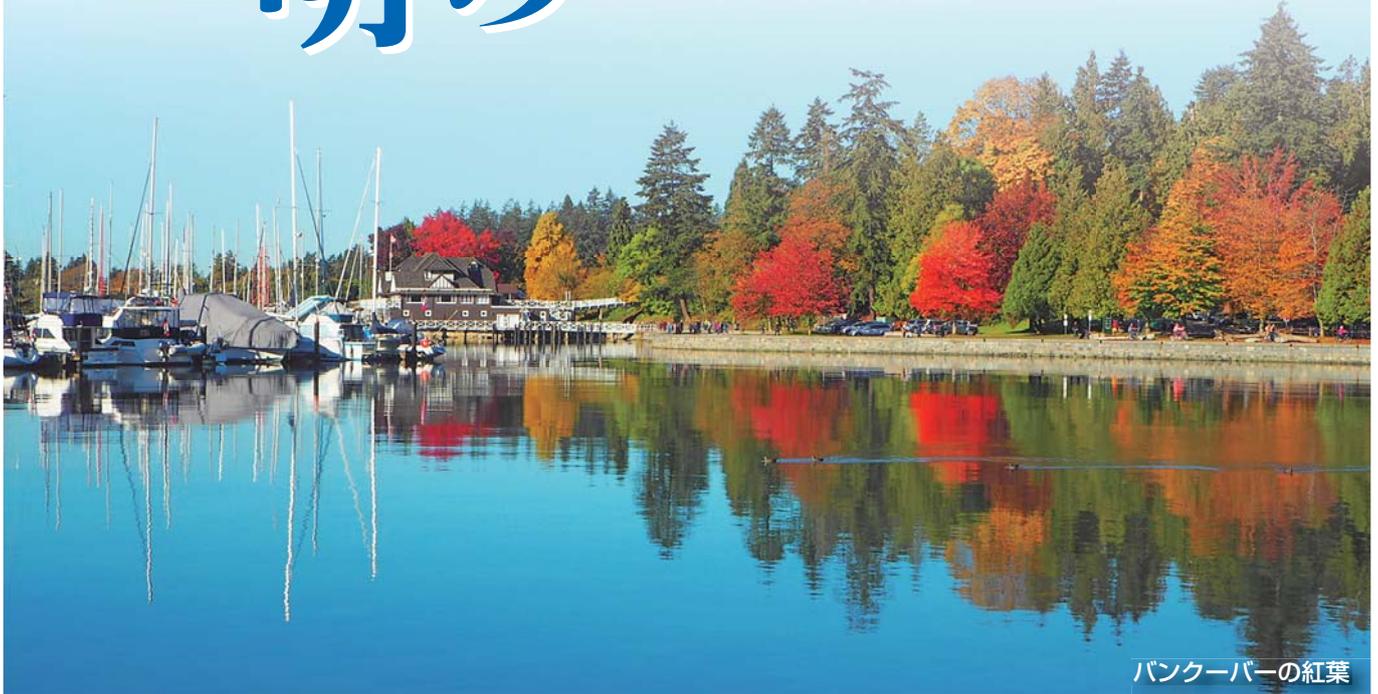


がん研有明の会 会報

有明の風

第67号

2025年11月10日発行



バンクーバーの紅葉

就任のごあいさつ

がん研究会理事・研究本部 本部長
(兼)がんプレジジョン医療研究センター所長 大津 敦



この度、野田哲生先生の後任として研究本部長を拝命しました大津敦と申します。

私は国立がん研究センター東病院に32年間勤務し最後の8年間は東病院長を務めておりました。野田先生や佐野武病院長の長年のご努力で、がん研究で数々の実績を挙げてこられた歴史あるがん研究会に勤務できることは大変光栄に感じております。がん研での勤務は初めてとなりますが、会員の皆様にはお見知りおきくださいますようどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

がん研究は文字通り世界的に日進月歩で進んでいます。患者さんの血液や手術や内視鏡での生検などで得られるがんの組織での、遺伝子やタンパク質の解析などの解析技術が急速に進歩しており、患者さん個々の病態の把握が精細なレベルで見ることができるようになりました。また、新しいがん治療薬の開発も各方面で進んでおり、患者さんの遺伝子変化に応じた分子標的治療薬や、免疫チェックポイント阻害剤、抗体に抗がん剤を付加した抗体薬物複合体(ADC)、がんと免疫細胞などを結合させる二重鎖抗体など新しいお薬を創る技術が次々に開発され、がんの治療成績を大きく向上させています。

私は、前職時代から「個々の患者さんに最適な治療を提供する」とともに「新しいがん医療を創出しいち早く患者さんに届ける」ことに取り組んでまいりました。現在研究本部は「がん研究所」、「がん化学療法センター」、「がんプレジジョン医療研究センター(CPMセンター)」の3部門からなり、がん研究会の使命である「がん克服」に向け、がんの早期診断や予防法、新しいがん治療薬の開発、患者さん個々の正確な病態把握による最適な治療選択法などの研究を病院と一体となって取り組んでいます。また、これらの成果をいち早く患者さんへ届けるための基盤整備や企業との産学連携も積極的に進めております。

「がんを知りがんを制す」は前任の野田先生が長年提唱され、今も変わらない研究本部のテーマです。一方で、近年の様々な研究の進歩により知るべき情報量は大幅に増加し、がんを制する方法も多様化しています。広く世界的視野で各方面の研究の進歩を把握し、大学などのアカデミア研究機関や製薬・診断薬企業などとも連携してよりよいがん医療を創出し、いち早く患者さんに届けられるよう努力してまいります。会員の皆さまにも新しい成果をわかりやすく発信できるようにしていきたいと思ひます。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

このところの 「がん研有明友の会」と「がん研究会」

連日の猛暑、10月も続くのではと言われ何時まで続くのだろうと思われたこの夏でしたが、お彼岸の声を聞いた途端に平年並みの気温になり、朝夕の気温が下がって猛暑日もなくなり過ごしやすくなりました。

かわりに早くもインフルエンザ流行の兆しがありワクチンの早期接種が求められています。コロナも一時ほどではなくなりましたが相変わらずの発生が続いており引き続き注意が必要です。

コロナがインフルエンザ並みの扱いになり社会における経済活動なども以前に戻りつつあり、当友の会においても総会に先立つ役員会の開催、総会の開催、続く役員会、総務委員会の開催などこれまでの活動に戻ってまいりました。

この4月は新会長を迎え、新会長に前第66号会報トップページ(表紙)の記事執筆をいただきました。先の理事会では新たな理事候補者の推薦、応募を得て、本会報最終8頁にもあげましたとおり、5名の理事候補の方を迎え今後の活動への取り組みを模索しております。

一方、がん研究会にも本年は人事面の大きな異動がありました。

この4月研究所所長の交代がありました。前研究所長の野田先生は顧問・名誉所長として引き続き勤務されておりますが、後任に国立がん研究センターから大津研究本部長が迎えられました。これまで研究所長は研究部門、主として病理部門からでていましたが、大津先生は国立がん研究センター東病院病院長でおられた方で、これまでと異例の人事のように思われます。今回本号トップページの挨拶文は同大津研究本部長からいただきました。



また、病院部においては現佐野病院長が来年3月に定年を迎えられ交代になるように聞いております。佐野病院長はかねてより友の会のことを深く心にとめ支援活動をして下さいました。次期病院長はどんな方が就かれるのか気になるところです。

佐野先生は、先には友の会会員としてご入会下さり今後も友の会活動に力添え下さると仰っておられます。どうぞよろしく願い申し上げます。

末尾ですが言うまでもないことながら一言。

有明友の会はがん研究会の強いバックアップにより設立され、がん研究会とは一心同体のような密接な関係でおりますががん研究会とは別の任意団体です。

これまでの繰り返しであり、十分承知しているよと、おっしゃられる方には誠に恐縮ですが、混同されておられる方が少なからずおられるので改めて申し上げさせていただきます。

友の会会員の皆様にはどうぞこのことを念頭に置き心に留めておいていただきたいと存じます。

抗がん薬の開発とがんのゲノム医療 ③

がん研有明病院 顧問 ゲノム診療部部長 高橋 俊二

抗がん剤の開発が開始されたのは、第2次世界大戦中の事故によるといわれています。1943年にイペリットという毒ガスを積んでいたアメリカ商船が爆撃されて沈没しました。乗組員が毒ガスにさらされ、元々知られていた皮膚症状に加えて、白血球が著明に減少することが分かり、これから白血球が増える病気（白血病やリンパ腫）への有効性が考えられました。1946年に似た構造のナイトロジェンマスタードという薬がリンパ腫の患者さんに投与されて、有効性が報告されました。これをきっかけにして種々の抗がん剤が続いて開発されて、白血病やリンパ腫が治癒しうることが分かりました。

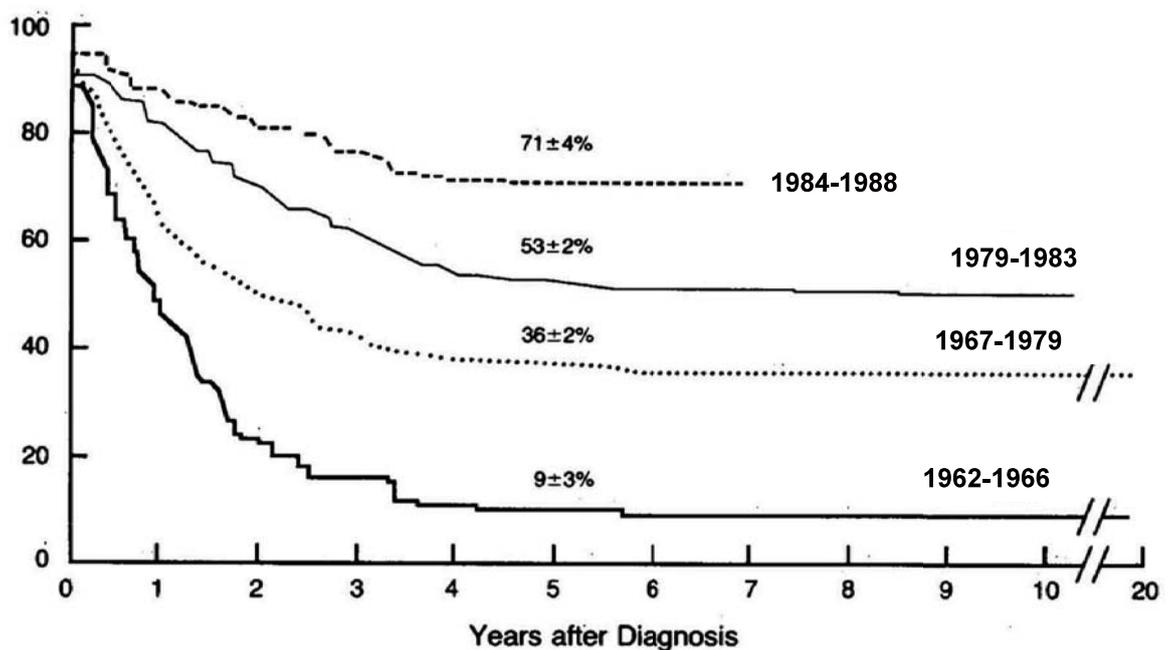


抗がん剤によって白血病がどのくらい治るようになったかということですが、1960年代から80年代に治療した小児リンパ性急性白血病の患者さんの無再発生存曲線（診断後何年後に何%の患者さんが無再発で生存されているか）を示します（図2）。急性白血病は5年再発しなければほぼ治ったと考えられますから、1960年代は9%の子供さんが治ったと考えられ、60年代から70年代にかけて36%になり、70年代から80年代にかけて53%になって、80年代になると70%まで治るようになりました。更に成人の白血病もかなり治る確率が上がっていきました。

（次号68号に続く）

図2 小児白血病治癒率の改善

無再発生存率



チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)の活動について

がん研有明病院 トータルケアセンター 森安 真優

私はチャイルド・ライフ・スペシャリスト(Child Life Specialist: CLS)という仕事をしています。CLSは、医療環境の子どもたちとその家族が、自分のもつ力を発揮しながら困難な状況を乗り越えていけるよう、心理社会的支援を提供する専門職です。たとえば、検査、処置や治療の前に、子どもたちが「これから何が起こるのか」や自分の役割・できることについて理解し、主体的にその医療体験に臨めるよう、心の準備をお手伝いします。また、いつもと違う病院環境の中でも、子どもたちのこころとからだの安心・安全や、発達に応じた遊びや学びの機会が守られ、健やかに成長していけるよう、他の職種と協力しながらサポートしています。



CLSはアメリカに本部を置く Association of Child Life Professionals (ACLP) という非営利組織の認定資格で、日本の国家資格ではありません。遡ること1920年代頃にマサチューセッツ州の病院で、子どもたちがより良い環境で治療を受けられるように「Play Lady (遊びのおねえさん)」が雇用されたのがCLSの始まりとされています⁽¹⁾。2020年4月時点では世界中で6,170名のCLSが活動しており⁽²⁾、その活動場所は子ども病院や小児科だけではなく歯科、リハビリ施設、ホスピス、

葬儀場、キャンプ、学校、地域の支援団体(グリーフケアやがん患者さん向けプログラム等)、養子縁組事業者、災害支援団体、司法制度等多岐にわたります⁽³⁾。日本国内では、1999年にCLSが初めて病院に雇用され⁽¹⁾、2025年7月時点では36施設で50名のCLSが勤務しています⁽⁴⁾。

当院では、CLSはサバイバーシップ支援室チャイルド・AYAサポートチームに所属し、治療を受けている子ども・青少年の患者さん、子育て世代の患者さんにかかわらせていただいています。子ども・青少年の患者さんには、遊びや対話を通して気分転換を図り、その時々抱えている思いを聞かせてもらい、どう病気や治療に向き合っていくかを一緒に考えます。子育て世代の患者さんたちは、ご自身の病気や治療と向き合うのと同時に、お子さんに病気のことをどう伝えるか、伝えた後のお子さんの反応や親子関係の変化にどう対応するかについて悩まれることがあります。CLSは、年齢発達だけではなくそれぞれのお子さんの個性やご家族の文化に合わせた伝え方、伝えた後のお子さんの気持ちのケアについて、患者さんや他のご家族と一緒に考えていきます。残念ながら、CLSには患者さんやご家族が抱えている困りごとをすぐに解決する、というような即効性はありません。ただ、患者さんやそのご家族が困難な状況にあるとき、一緒に悩み、試行錯誤しながら解決方法を考えていける味方のひとりであり続けたいと思っています。



普段患者さんに紹介している絵本の一例

<参考>

- (1) 一般社団法人日本チャイルド・ライフ・スペシャリスト協会(2025)「活動の歴史」一般社団法人日本チャイルド・ライフ・スペシャリスト協会ホームページ. <https://jaccls.org/history/> (閲覧日:2025年9月30日).
- (2) Cantrell, K. & Kara, M. (2022). Agenda for child life science. Association of Child Life Professionals. Retrieved September 30, 2025, from <https://www.childlife.org/resources-legacy/aclp-bulletin/agenda-for-child-life-science>
- (3) Association of Child Life Professionals Position Statement on Child Life Practice in Community Settings. (2018). Association of Child Life Professionals. Retrieved September 30, 2025, from <https://www.childlife.org/docs/default-source/about-aclp/cbp-on-cl-practice-in-community-settings.pdf>
- (4) 一般社団法人日本チャイルド・ライフ・スペシャリスト協会(2025)「CLS勤務施設一覧(36施設50名、2025年7月現在)」一般社団法人日本チャイルド・ライフ・スペシャリスト協会ホームページ. https://jaccls.org/place_of_employment/ (閲覧日:2025年9月30日).

薬剤部の取り組み

がん研有明病院 院長補佐 薬剤部長 山口 正和

がん研有明病院は、高度な医療を提供する特定機能病院であり、また、がん専門病院でもあることから、薬剤部では「安全で質の高い薬物療法の提供」を使命に掲げ、診療・教育研修・研究を三本柱として日々の業務に従事しています。その中でも、薬剤師の専門性を最大限に発揮するための取り組みとして、薬剤師外来、ABCセミナー、三団体合同薬薬連携推進研修会をご紹介します。



①薬剤師外来

薬剤師外来は、通院で抗がん薬治療を受ける患者さんに対し、薬剤師が医師の診察前に面談を行い、服薬状況や副作用の評価、処方提案を行う仕組みです。当院では2009年から導入し、2024年度の診療報酬改定で評価対象となる以前から先駆的に実施してきました。薬剤師は、患者さんの症状や検査値を基に副作用の重症度を判定し、「休薬・減量・継続」の判断を医師に提案します。これにより、薬物療法の質向上、医師の負担軽減、患者満足度の向上を実現しています。また、服薬アドヒアランス低下の要因(例：味覚異常や服薬回数の多さ)に応じて、支持療法薬の追加や服薬回数の少ない薬剤への切り替えを提案するなど、患者ごとの個別の課題解決にも注力しています。薬剤師外来は、単なる服薬説明にとどまらず、薬物療法の共同意思決定における重要な役割を担っています。

②ABCセミナー

ABCセミナー (Ariake Basic in Cancer seminar) は、薬薬連携の推進とがん薬物療法の知識普及を目的に、薬剤部が毎月開催するオンライン研修会です。対象は、保険薬局薬剤師や病院薬剤師、薬学生など幅広く、がん薬物療法の初学者から中級者を中心に構成されています。各回テーマを変え、がん種別の薬物療法や支持療法、曝露対策、アドヒアランス評価など実践的な内容を提供しています。参加費は無料で、毎回全国から800名を超す参加があり、地域を超えた学びの場として定着しています。

③三団体合同薬薬連携推進研修会

東京都がん診療連携協議会(研修部会薬剤師小員会)、東京都薬剤師会、東京都病院薬剤師会の三団体が合同で開催する「薬薬連携推進研修会」は、がん薬物療法における病院薬剤師と保険薬局薬剤師の連携強化を目的としています。当院はこの協議会の中心的役割を担い、トレーシングレポートの活用や情報共有の仕組みづくりをテーマに、講演とグループワークを組み合わせた実践的な研修を実施しています。これらの活動は、地域全体での薬薬連携の質向上を目指し、がん治療における安全性と継続性を支える重要な基盤となっています。

がん研有明病院薬剤部は、薬剤師の専門性を活かした薬剤師外来、知識普及を目的としたABCセミナー、そして地域連携を推進する三団体合同研修会を通じて、がん薬物療法の質向上と患者さん中心の医療実現に貢献しています。これらの取り組みは、今後ますます重要性を増す薬薬連携のモデルケースとして、全国に発信を続けて参ります。



寄稿

鈴木美穂様 プロフィール

2006年慶応義塾大学卒業後、2018年まで日本テレビに在籍。報道局で医療や政治などを取材する記者やキャスターなどを経験。

2008年乳がん罹患し、2009年、若年性がん患者団体「STAND UP!!」を発足。2014年ウィーンでの国際会議で「マギーズセンター」と出会い、「がんになったとき、近くにあったら」と日本に開設することを決意。看護師の秋山正子氏と共に仲間を集め、2016年「マギーズ東京」を東京豊洲にオープン。

2019年がんに関する課題解決を目指す「CancerX」設立。2024年「AI 乳がん検診」を開発普及する株式会社 Smart Opinion の Chief Communication Officer 就任。

厚生労働省で社会保障審議会医療部会などの委員会、PMDA 運営評議会、NHK 放送審議会などで委員も務める。



「ひとりじゃない」と伝えたい ～マギーズ東京10周年へ、感謝を込めて～

24歳で突然がんを告知されたあの日から、私の人生は一変しました。家族にがんの経験者がいなかったこともあり、先の見えない不安に襲われました。周りの友人たちが仕事やプライベートを楽しむ中で、「なぜ私だけが…」という孤独感に苛まれ、うつ状態になりながら闘病しました。

AYA 世代のがん患者団体「STAND UP!!」の共同創始者として2014年に訪れたウィーンの国際会議で、私は英国のマギーズセンターと出会いました。がんに影響を受けた方のための洗練された空間で、無料で専門家に相談でき、全てがチャリティ(寄付)で運営されていることに衝撃を受けました。「がんになったとき、こんな場所が近くにあったらよかった」と強く感じました。

2016年、現センター長の秋山正子さんをはじめとする志を同じくする仲間たち、そして温かいご支援をくださった多くの方々と共に、マギーズ東京をオープンすることができました。来年、当センターは10周年を迎えます。これまで、どれほど多くの方々に支えられ、励まされてきたことか。心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

マギーズ東京は、がんに影響を受けた方がいつでも無料でご利用いただける「第二の我が家」です。病気の診断から治療、そしてその後の生活に至るまで、がんは私たちに様々な困難を突きつけます。身体的なつらさだけでなく、精神的な落ち込み、仕事や家族への影響、そして「これからどうなるのだろう」という漠然とした不安。そんな時、一人で抱え込まず、安心して立ち寄れる場所があることの心強さを、私自身が身をもって感じてきました。

リビングのように居心地の良い空間では、温かいお茶を飲みながらゆっくりと過ごしたり、同じ経験を持つ方々と語り合ったり、あるいはただ静かに過ごしたり。ここでは、誰もがその人らしく、自らの力を取り戻していく時間を大切にしています。専門的な知識と経験を持つがん看護の専門家や心理士が、医療に関する疑問や心の悩み、社会生活での困りごとなど、どんなことでもご相談いただけます。リラクゼーションや栄養のことなど、様々なテーマのグループプログラムも無料でご参加いただけます。専門職との対話や、これらのプログラムを通して、自身と向き合い、心身のリフレッシュを図り、力強く社会に戻られていく姿に、私自身も何度も励まされてきました。

私たちは、がんに影響を受けた全ての方々が、孤立することなく、それぞれのペースで悔いのない人生を歩んでいけるよう、これからも扉を開き続けたいと思っています。どんな些細なことでも構いません、お気軽にお立ち寄りください。いつでもお待ちしております。

そして、もう一つ皆様にお伝えしたいことがあります。現在の私たちの居場所は暫定的な利用であり、今後、新しいセンターをオープンするという大きな挑戦を控えています。この新しい挑戦も、これまで同様、多くの方々のご理解と温かいご支援なしには成し遂げられません。がんとともに生きる方々が、より安心して、より豊かな時間を過ごせる場所を未来へと繋いでいくために、皆様のお力添えをいただければ幸いです。



がんは、私たちの人生に大きな影響を与えます。しかし、私たちは決して一人ではありません。がんに向き合う中で感じる様々な感情を分かち合い、支え合い、そして前を向く力を取り戻せる場所が、ここにあります。マギーズ東京は、これからも「がんに影響を受けた全ての方」のために、歩みを進めていきます。

心からの感謝を込めて。

マギーズ東京 共同代表
鈴木 美穂

紙飛行機

～友の会 会員便り～

有明の追憶

友の会 会員 佐々木繁雄

「得難きは時、会い難きは友」という言葉がありますが、がん研有明病院での入院経験を通じて、私はその双方に恵まれました。長年勤めた会社を退職し、新たな人生を謳歌しようとしていた矢先、67才で大腸がんに罹患していることが分かりました。当時のがんは現在よりも暗いイメージの病であり、かく言う私もかなり動揺していたことを今でも覚えています。

幸い以前勤めていた会社を通じて、がん研有明病院の岩崎部長にご紹介いただき入院させていただける運びとなりましたが、この選択は私の人生における大きな分岐点となりました。

がん治療ということで不安を抱えながらの入院となりましたが、4人部屋の諸先輩方は明るく朗らかな方達ばかりで、面倒見が良く、不慣れな私にあれやこれやと心を砕いて下さったり、毎食後夜遅くまで騒いで看護師の方にご迷惑をお掛けしたりと、まるで起居を共にした仲間との学生時代を思い起こさせるような入院生活でした。



山海の絶景を楽しむ

私の場合、肛門に比較的近い部分にがんが見つかりましたが、幸い人口肛門にすること無くオペが終了し、無事退院することが出来ました。

晴れて仲間全員が退院したその後は、年少者である私が幹事役を勤めさせていただき、毎年伊豆方面を散策し滋味豊かな食材に舌鼓を打つ、そんなリハビリを兼ねた楽しい旅行を仲間と共に10年間続けることが出来ました。



伊豆高原大室山リフトより相模灘を一望
(左が筆者)

がん罹りしながら術後このような素晴らしい時間を過ごせたのも、ひとえにがん研有明病院での高度医療を受けることが出来たおかげであると今でも感謝しております。病の前では人は皆平等です。それ故に浮世のしがらみの無い、気の置けない諸先輩方と人生の晩年に出会い、友情を育めたことは私にとって生涯の宝物となりました。

ビビンバ

がん研有明病院 栄養管理部

材料 (2人前)

ごはん……………300-400 g	ほうれん草……………80 g
豚ひき肉……………100 g	もやし……………60 g
濃口醤油……………小さじ1	人参……………20 g
砂糖……………小さじ1	濃口醤油……………小さじ1
ごま油……………小さじ1	ごま油……………小さじ0.5
	★白ごま……………少量
	おろしにんにく……………少量(お好みで)
	温泉卵(お好みで) ……1個

作り方

- ①人参は千切りにして軟らかく茹でる。
- ②ほうれん草はざく切りにし茹でる。もやしも茹でる。粗熱が取れたら、どちらも軽く絞っておく。
- ③豚ひき肉をごま油で炒め、☆の調味料を加える。
- ④①と②に★の調味料を加えて和える。
- ⑤ご飯を適量どんぶりに盛り付け、③と④を盛り、お好みで真ん中に温泉卵をのせ、完成。

一口メモ

ビビンバは韓国料理です。語源は「混ぜる」を意味する「ビビム」と「ご飯」を意味する「パプ」を組み合わせた「ビビムパプ」といわれています。一度にごはん・肉・野菜など様々な栄養素を摂取できます。温泉卵を追加することでタンパク質をしっかり摂取することができます。辛みがお好きな方はコチュジャンを入れると、おいしく召し上がれます。



がん研有明友の会 現在の状況

清秋の候、皆様お変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

9月19日開催の理事会に予定新理事候補を募集中のところ、5名の新理事候補の皆様に出席いただきました。

自己紹介から始まり、約2時間の理事会で皆様と意見交換をいたしました。

コロナ禍以降減少していた会員状況も8月末現在904名と増えつつあり、古畑新会長共々組織の見直しを検討しております。具体的には「令和7年度第20回定時総会資料」の通り、「企画渉外広報委員会」を「広報委員会」とし、新たに「企画・会員増強委員会」を設けました。

他に5名の新理事候補の皆様により理事承諾を頂ければ次回令和7年12月10日理事会に理事としてそれぞれ担当部署に配属、今後の友の会運営に加わっていただければ幸いです。

有明の風 表紙の写真について

バンクーバーのスタンレーパークを散歩中に撮影した1枚です。

以前バンクーバーに滞在していたことがあり、私が住んでいた大好きなバンクーバーを母に見せたくて一緒に旅行に行きました。10月中旬でしたが、地元の方に「1週間前だったらこの紅葉は見られなかった。ラッキーだよ!」と言われるほど絶妙なタイミングで訪れることが出来ました。

紅葉のすぐ近くを歩いていた時も綺麗だな〜と癒されながら歩いていましたが、対岸から見たこの景色には息を呑みました!立ち止まり、ただ心のままに撮った1枚です。

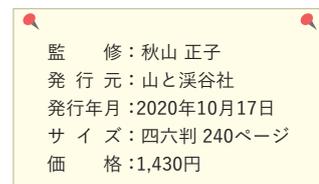
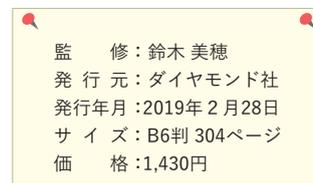
画像診断部 渡邊ひかる

この一冊

“もしすべてのことに意味があるなら” “がんと共に生きていくときに、知っておいてほしいこと”

この度のこの一冊ご紹介は、がん研有明病院のすぐ近く、東京豊洲にあるマギーズ東京の共同代表鈴木美穂さん、秋山正子さんお二人の夫々2つの著書です。

以前、本会報第43号寄稿欄記事としてマギーズ東京共同代表秋山正子センター長に記事執筆をいただきました。それから6年になりますがこの度は同マギーズ東京共同代表であられる鈴木美穂様からご執筆をいただきました。これを機会に、お二人が共同代表として開設されたマギーズ東京のことを知っていただけたらと思ひ本書をご紹介します。本書を読めばがんに罹患された患者さんの気持ちや、気易く何時でも訪ねることが出来る色々なことを何でもお聞きし相談が出来る、ゆっくり安心して過ごすことの出来るくつろぎの場であるマギーズ東京のことが、良くお分かりいただけるのではないかと思います。



有明友の会 入会のご案内

有明友の会は、がんで命を落とさないようにするために、がんに関する知識を深め、情報を共有し、がんに気をつけよう、がん研究の支援により、進んだ医療が受けられるようにしようということを目的にしております。

その活動は、年4回の会報発行、公開講座の開催などの他、日本で最も歴史のあるがん研究会の事業支援をすることとしており、年会費は5,000円(個人、一口)となっております。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

がん研有明友の会会報 発行元・事務局

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31 がん研有明病院内 TEL: 03(3570)0561 FAX: 03(3570)0562

HP: <http://ariaketomonokai.org> E-mail: tomonokai@jfc.or.jp



◀友の会ホームページ